

【評価】 A:目標を上回る達成 B:目標を達成または概ね達成 C:目標を達成せず D:目標を大きく達成せず

大項目	中項目	小項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
I 進んで学びやりとげる子	学習指導の充実	1	教材研究に努め、ICTを積極的に活用するなど、楽しくよくなる授業を進めた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書画カメラ、教室PCを積極的に利用し、見てわかる授業を工夫できた。書画カメラは、台数が足りない。</li> <li>・学年教育への意識が高まり、学習や生活面での目標設定、指導方法の工夫等、学年で相談しながら進められた。</li> <li>・個別指導、取り出し授業の充実を図れた。</li> <li>・夏季研修は実施できたが、放課後ミニ研修は3回程度しか実施できなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとってわかりやすい授業の工夫を今後もお願いしたい。習字等、様々な技術（スキル）を子ども達に身につけてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書画カメラを計画的に導入する。ICT機器を活用した授業の研修を行う。</li> <li>・基礎計算カテスト、つまづき診断テスト等を引き続き実施して、児童個々の学力を把握し、指導に生かす。弱点をガッテンプリントやチャレンジ問題を利用し補う。</li> <li>・学習支援ボランティアの導入を検討する。</li> <li>・学力向上に関わる研修や若手教員への指導技術継承を意識した研修を充実させる。</li> </ul>
		2	基礎学力の定着を目指し指導体制を整え、指導方法の工夫に努めた。	B					
		3	指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。	B					
	読書活動	4	読書の楽しさがわかるよう、教師による読み聞かせや本の紹介などを行った。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年内で教師交換し、読み聞かせを行った</li> <li>・図書ボランティアによる本の整備等を積極的にできた。</li> <li>・志賀お話し会による読み聞かせを今年度も計画通り実施できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ本について、話（紹介）をしたり、感想文を書いたりする活動を取り入れるとよい。</li> <li>・朝読書を続けていけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師交換の読み聞かせの機会を増やしていけるとよい。</li> <li>・図書ボランティアとの連携を図る時間を増やしていけるとよい。</li> <li>・学級文庫改善のために、保護者に古本寄贈のよびかけを行う。</li> </ul>
		5	読書環境・体制の整備や地域人材等の活用を行った。	B					
	学び合い	6	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱い立場の子を中心にした学級づくり、一人ひとりの意見を大切にした学級づくり等、学年、学級で目標を立て、支持的風土づくりを進めた。</li> <li>・校内研究で国語科を中心に、「話す、聞く」を意識した授業改善に取り組み、一定の成果を得た。</li> <li>・話し合い活動や学習成果物の発表等の交流場面で、学び合いを多く取り入れた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと」について、高学年の育ちが低い。何も見ないで話すことをめざしたい。</li> <li>・今後も、グループの話し合い等、学習形態の工夫を取り入れるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支持的風土醸成の基本となる学習規律づくり、人の話をしっかり聞く態度の育成に努める。</li> <li>・校内研究では、「話す・聞く」を柱に研究を続け、伝え合う喜びやコミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努める。</li> </ul>
		7	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	B					
		8	学び合いを追求する授業研究や教員研修に取り組んだ。	B					
II 仲良く助け合う子	道徳教育・特別活動の充実	9	生命を尊重する心や人権の尊重などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権の日を月一回実施し、豊かな心を育む機会となった。</li> <li>・夏休み、冬休みに道徳の宿題を出すことで、親子でも、道徳について考える機会を作れた。</li> <li>・人権擁護委員会の方に授業をしていただいた。年間一回の道徳の授業参観を今年度も実施できた。</li> <li>・「私たちの道徳」を年間計画に位置づけた。</li> <li>・道徳の資料を保管し、授業で有効利用できている。</li> <li>・学級会の進め方の系統だった指導ができていない。取り組みに差がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育に力を入れているのはよいこと。人としての幅が広がる。</li> <li>・高学年になった時に、委員会等のイベントの運営を子ども達自身で行えるように、系統立てて指導していくとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権の日の取り組みを継続して行う。</li> <li>・「私たちの道徳」と従来の副読本の活用の仕方を整理し、活用を促す。</li> <li>・学級会の進め方を4月に教員に配付、研修し、児童の指導に生かす。</li> <li>・発達段階に応じた学級会の到達目標を設定する。</li> <li>・仲間づくり部会で、実践交流する。</li> <li>・わにっ子集いに目的意識をもって参加できるように、学級で指導し、集会に臨む。</li> <li>・学級全員参加の遊びの時間を設定して、いっしょに活動することを通して、仲間づくりを進める。</li> </ul>
		10	道徳の資料開発・整備に努め、積極的に授業公開を行った。	C					
		11	自治的能力を高めるため、学級活動や児童会活動など、発達段階に応じた適切な指導を行った。	B					

大項目	中項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
	生徒指導の推進	12 「3つのそろえる」に全教職員が一体となって取り組んだ。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのそろえる」については、係活動や委員会の仕事の一つとしてくつそろえをする等、子どもに意識付けをする取り組みが増えてきた。全体としては、まだ取り組みにばらつきがある。</li> <li>・生徒指導については、報連相をよく意識できた。組織的に対応できている。</li> <li>・不登校傾向児童の対応については、他機関と連携しながら、対応できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつは、大人が手本となるようにする。いじめは、当事者だけでなく、周りの子の関わりも大切である。集団力を高めることが肝要。</li> <li>・問題行動と思われることも、子どもにとって大きな成長につながる人が多い。大人がいっぱい関わりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのそろえる」は、次年度以降も指導の重点とし、委員会活動等でも、さらに啓発していく。また、重点月間を決めるなどし、意識向上を図る。</li> <li>・人権生活委員会の活動の負担が大きいため、人権と生活を分けることを検討する。</li> <li>・報連相の徹底、関係機関との連携をさらに進める。</li> </ul>
		13 生徒指導・教育相談体制を確立し、いじめや暴力行為、不登校等の諸課題の早期発見、日常的な予防指導、3公3現の原則に基づいた対応に組織的に取り組んだ。	A					
		14 問題行動や不登校傾向児童に対して、保護者・関係機関と連携して取り組めた。	A					
	特別支援教育の推進	15 組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努め、児童支援に役立てた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育支援員、教務等がフル稼働し、必要な児童の支援に動いている。</li> <li>・和邇の子を語る会で、特別な支援を必要とする児童の把握、理解ができ、個別の指導計画も作成できている。</li> <li>・スクールカウンセラー、巡回相談、通級指導教室、ケース会議等で教育相談の充実に努められた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばで思いや意志を伝える力が弱くなってきている。幼少期のことばの獲得も遅くなっているように思う。子どもが納得いくまで聞くことが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援を必要とする児童について、和邇の子を語る会だけでなく、定期的に話し合える場を作っていく。</li> <li>・個別の取り出し学習指導は、入級対象児童の子を軸に必要なに応じて行うようにする。</li> </ul>
		16 校内委員会を組織し、支援を要する児童の指導計画を作成し、活用するよう努めた。	B					
		17 関係機関と連携した教育相談体制の充実に努めた。	B					
III健康でたくましい子	体力作り	18 たくましい心と体を育てる魅力ある授業改善に努めた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業間マラソン(らん・ラン・RUNタイム)、縄跳び大会、長縄大会等、学校全体で体力向上の取り組みができた。</li> <li>・体育の授業で、子ども達が実際に運動する時間の確保に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期からすでに、体力の差が大きい。小学校での、体力向上の様々な取り組みを引き続き、行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師間で、体育通信を作る。指導の実践事例やめざす子どもの姿等を交流し、魅力ある授業づくりにつなげる。体育実技講習会を行い、指導技術継承に努める。</li> <li>・なわとびのジャンピングボードを新たに作るなど、体育環境向上に努める。</li> </ul>
		19 運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	A					
		20 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	A					
IV育ちを支える連携	家庭・地域連携	21 保護者に対して、子育てに対する支援や研修会を行った。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと協力し、子どもの育ちに関する子育て支援講演会を実施した。</li> <li>・学校便り、HP等を通して、情報発信をしたが、HPの更新が予定通りできないことがあった。</li> <li>・スクールガード研修会の実施方法を再検討し、今年度から児童との顔合わせも同時に行った。</li> <li>・避難訓練を4回実施し、休み時間の訓練を初めて実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAは、地区の人数が減っている。仕事の見直しが必要。</li> <li>・放課後の遊び場がない。学校で、放課後何かできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いている方も、もう少し気軽に参加できるPTAになるように、さらに組織や活動内容の見直しを行い、スリム化を図る。</li> <li>・地域行事に、教員ができるだけ参加するように努める。</li> <li>・学校、学年便りに、子どもの活動している姿を紹介するようにしていく。</li> </ul>
		22 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会等実施に努めた。	B					
		23 防災教育の推進と安心・安全な学校づくりを進めた。	B					
	保幼小中連	24 子どもの校種間交流や教員の出前授業等、積極的な連携に努めた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中連携事業のとして、出前授業、作品展や発表会への参加、中学陸上部員が小学生を指導、教員間の交流など積極的に連携に努めた。</li> <li>・志賀中学校区研では、夏の合同研修会、部会の活動等に参加し、交流に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中間で、学力について、共通理解するとよい。(身につけさせたい事柄や低学力の子の対応など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中連携事業では、行事の取り方を工夫したり、夏季休業を有効利用したりして、連携をさらに進めていく。また、今年度行った事業を継続発展していくようにする。他校に、まめに足を運ぶようにする。</li> </ul>
		25 校種間の合同研修会や教育内容等の交流に努めた。	B					

\* 3公=公開、公平、公正

\* 3現=直ちに現場、直ちに現地の児童、生徒、直ちに現地で対策